

齊木 舞（星槎国際高等学校・福岡西学習センター二年生）

日本語の魅力といって思い浮かべるのは「方言」だ。私は、故郷の温もりや土地柄を感じさせる方言が大好きだ。同じような理由で故郷の方言が好きだという人も少なくないのではないだろうか。

私が方言のことを意識し始めたのは高校に入学してからだ。私は今、福岡の中でも佐賀、熊本に近い所から福岡市内の学校まで通っているが、まずここで方言の違いを体感した。同じ福岡でも自分の住む地域と言葉の言い回しが微妙に違うのだ。例えば、これは博多の若者言葉らしいが、「凄く」といった意味の言葉で、「ちかっぱ」「バリ」などがある。「ちかっぱ」とは「ちからいっぱい」の略語であった。私が住む地域では、「ぎゃん」といった言い回しをするため、初めて耳にした時は何のことを言っているのかよく分からず戸惑ってしまった。基本的には普段耳にする言葉と大差がないせいか、その僅かな違いの方がなんとなく気になってしまふのだ。

調べてみて分かったことは、私は普段使っているのは大牟田弁や佐賀弁に分類されるものなのだそうです。それから、自分が福岡全体で使われているだろうと思っていた言葉が一部の地域でしか使われない言葉だったりと意外とたくさんあって非常に驚いた。同じ県内でも地域によって微妙に違った方言を使う、そんなところに私は方言の面白さを感じた。

福岡の言葉だけではなく、私の祖母は北海道の出身で小学校の頃から北海道の方言を聞くことも少なくなかった。祖母は九州に住んでいる期間も長く、北海道と九州の方言の混ざったような喋り方をしていた。さすがに北海道と九州ほど離れていては言葉も全然違い時折何を言っているのかよく分からないこともあった。だから祖母が亡くなった今ではほとんど覚えていない。しかし、以前学校の行事で北海道に行った時、あちらの先生方の話す方言になんとなく祖母の話していた言葉を思い出し、なんだか懐かしいような気持ちになった。言葉とは不思議な力があるものだと思った。

先日、沖縄と広島の子校の生徒と交流する機会があり、少し離れた県の方言を聞く機会ができた。特に広島の子校との会話で、広島と福岡は比較的近くにあるせいか方言は少し似た部分があるように感じた。言い回しは似ていてもこちらのものとイントネーションが違っていて、これもまた新鮮味があつて面白い。例えば、「ありがとう」は広島では「ありがとね」と言い、「が」と「ね」にアクセントがつくのに対し、福岡では「ありがとう」のどこにもアクセントがつかない。

交流の中で広島の子校からも福岡の方言が可愛くて好きだと言ってくれた。私自身も好きな方言を他県の人に好きだと言つて貰えて嬉しかった。また、広島の子校で、若い人が「○○じゃ」とかお年寄りのような話し方をする

ギャップが可愛いと感じた。

それまでも何度か福岡の方言が好きだ、と言って貰ったことがある。そんな人達のおかげで私も今まで以上に福岡の方言が好きになれたし、誇りに思えるようになった。「方言」 Ⅱ 「土地柄」、そしてその「土地に住む人」と「言葉が好き」 Ⅱ 「その土地の人が好き」につながる気がするのでも嬉しく感じるのである。

私はこれからも大好きな方言を大事にしていきたいと思う。そして、将来はいろんな都道府県に行ってたくさんの方言に触れてみたい。そして、魅力溢れる大切な故郷の方言を通じて、その土地の人たちを知っていききたい。そしてまずは、自分の方言を誇りに思い、自然に美しく使える大人になりたいと思う。